

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>



START!
世界への扉
岡山大学、
始動。

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

1日 コミュニケーションシンボルの制定

岡山の地に世界から知が結集し、世界に向けて創造的な知の成果を発信するため「コミュニケーションシンボル」を制定。



23日 平成23年度学位記授与式を挙行
桃太郎アリーナで行い、学部生、大学院生ら計3,338人がキャンパスでの思い出を胸に、新たな一歩を踏み出した。

20日 一般入試(後期日程)合格発表

16日 定例記者発表を開催

16日 キャンパス内で岡山県公衆無線LANスポット「おokayまモバイルSPOT」のサービス提供開始



13日 機関申請プログラムの事業推進責任者に学長表彰
機関申請プログラムの事業推進責任者5人への学長表彰状授与式を行った。この表彰は、研究者個人でなく大学が機関として申請した競争的資金等の中心的な役割を果たす職員を対象に、当該プログラムが採択された場合に表彰状を授与し報奨金を支給する制度。

9日 東京で卒業生フォローアップセミナーを開催

3 March



25日 中国・首都師範大学と大学間協定を締結



23日 留学生同窓会が上海支部設立大会
留学生同窓会の上海支部設立大会が、中国・上海市内のホテルで開かれた。中国国内では、上海、北京、浙江、江蘇、吉林から多くの卒業生が集まり、50人以上が集う盛大な大会となった。今後は、卒業生としての一体感を高めていく活動を展開予定。

23日 環境マネジメントについて学ぶ「サステイナブルセミナー」を開催

20日 フ工大学から千葉前学長らへ名誉教授の称号授与

17日 岡山大学病院の王英正教授、大学院環境生命科学研究科の藤澤和講師が文部科学大臣表彰受賞

17日 定例記者発表を開催



11日 「フ工大学院特別コース」第4期生と「里親」との対面式を実施



8日 平成24年度入学式を開催
平成24年度入学式が桃太郎アリーナであり、学部・大学院生ら計3,503人がそれぞれの目標を胸に、新生活の一歩を踏み出した。

4



6日 自転車有効活用した理想的なまちづくりについて考える「自転車先進都市おokayまシンポジウム」を岡山商工会議所とともに開催

30日 東京で卒業生フォローアップセミナーを開催



29日 外部資金獲得者に学長表彰
多くの外部資金を獲得した研究者に、学長表彰を授与した。平成23年度中に受託研究および共同研究費を獲得した研究の代表者で、受入額が500万円を超え報奨金支給の対象となる69人のうち、3,000万円以上を獲得した4人を表彰。

18日 定例記者発表を開催

12日 資源植物科学研究科の一般公開を開催

27日 コカ・コーラウエストからスポーツ教育支援金を寄贈される



4

研究・臨床成果

■大学院自然科学研究科の一瀬勇規教授の研究グループは、植物病原菌に対し、病原性遺伝子の発現を抑制する新規化合物を複数発見した。これら化合物は殺菌効果はなく、環境に優しい環境保全型新規病害防除剤としての開発が期待される。(3月・定例記者発表)

■大学院自然科学研究科の宮竹貴久教授らの研究グループは、貯蔵穀類の重要な害虫であるタバコシバンムシが特定の紫外線波長に良く反応することを突き止め、この害虫の行動特性を利用した「UVC光による誘殺トラップ」の試作に成功した。現在、実用化できるトラップの形状を改良中であり、将来、食品害虫の防除に広く応用が期待される。(3月・定例記者発表)

■大学院自然科学研究科の妹尾昌治教授らの研究グループは、マウスのγδ細胞を用いたがん幹細胞モデルの作成に世界で初めて成功した。今回の樹立されたモデルを用いて解析を進めれば、がん幹細胞の研究の進展に拍車がかかるものと期待される。本研究の成果は、科学誌 PLOS ONE に掲載。(4月・臨時記者発表)

■社会文化科学研究科の今津勝紀准教授は、延暦13(794)年7月10日(旧暦)に未知の巨大地震が発生していたことを確認。震源は明示されていないが、直後に四国を一周していた南海道が廢止されており、これが南海地震であった可能性を示す。地震の規模は昭和南海地震クラスと推定される。(4月・定例記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科薬理学の西堀正洋教授と脳神経外科の伊達勲教授の研究グループは、交通事故などを原因とする脳外傷後に生じる脳腫脹の機序を明らかにし、急性脳腫脹に対する新しい治療法を開発した。研究成果は、米科学誌神経学紀要(Minds of Neurology)にオンライン発表。(4月・定例記者発表)

■資源植物科学研究科の馬建鋒教授らの研究グループは、イネのカドミウムの吸収に関与する主要な遺伝子Znans5を発見した。今後この遺伝子を利用することで、カドミウムを含まない安全なコメの生産が期待される。本研究の成果は米国の科学雑誌 Plant Cell に掲載。(5月・臨時記者発表)

■大学院教育学研究科の石川彰彦准教授らの研究グループは、幾つかの植物繊維が高いセシウム及びストロンチウムイオン吸着能を有していることを評価した。これらの植物繊維は農業、飲料産業等から膨大に得られる副産物であり、この知見を利用した放射性物質の除去技術について、放射能汚染問題の改善につながる可能性を提案。(5月・定例記者発表)

■大学院自然科学研究科の下野生助教と野原実教授らの研究グループは、結晶中に形成された鎖状分子を融解することによって現れる超伝導を発見した。この成果は、超伝導材料開発の新しいルートを示すもので、日本物理学会英文誌(Journal of the Physical Society of Japan)に掲載。(5月・定例記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の榎本秀一教授らの研究グループは、DNA損傷回復や抗酸化作用等の放射線防護作用を有する栄養補助食品のローヤルゼリーに着目し、事前にローヤルゼリーを経口投与したマウスを用いて、3種類の放射性核種の体内動態に与える影響について検証した。その結果、ローヤルゼリー投与により、様々な臓器における放射性核種の蓄積量が減少することを見出した。(5月・定例記者発表)